

富山駅周辺整備事業の概要



令和元年7月撮影

I. 富山駅周辺整備事業のコンセプトと5つの特徴

明治41年(1908年)に富山駅が現在の位置に設置されてから100年余りが過ぎ、平成27年(2015年)3月、北陸新幹線が開通し新しい時代の幕が切って落とされました。これに伴い、富山駅及び駅周辺は、県都富山の玄関口として、人・文化・情報が交流する新しい場となることを目指すとともに、コンパクトな都市を支える公共交通ネットワークの拠点として生まれ変わろうとしています。

基本テーマ
次の100年に受け継げる駅フロント整備
＜えき＞と＜まち＞の再構築を先導する
駅及び駅前広場の整備

基本方針1
県都富山の新たな顔をつくる
◆富山の歴史や自然を活かして駅舎・駅広をデザインし、良好な景観を形成します。

基本方針2
多彩な公共交通を快適につなぐ
◆駅南北が一体化し、公共交通がコンパクトにつながる安全・快適な駅及び駅前広場を整備します。

基本方針3
都市拠点としての機能をそなえる
◆高架下等を活用し、広域商業、文化交流、業務等の都市機能を充実します。

5つの特徴

富山駅周辺では、北陸新幹線の整備をきっかけに在来線を高架化し、南北に分断されていた市街地を一体化するまちづくりが進められています。具体的には、次の5つの特徴があります。

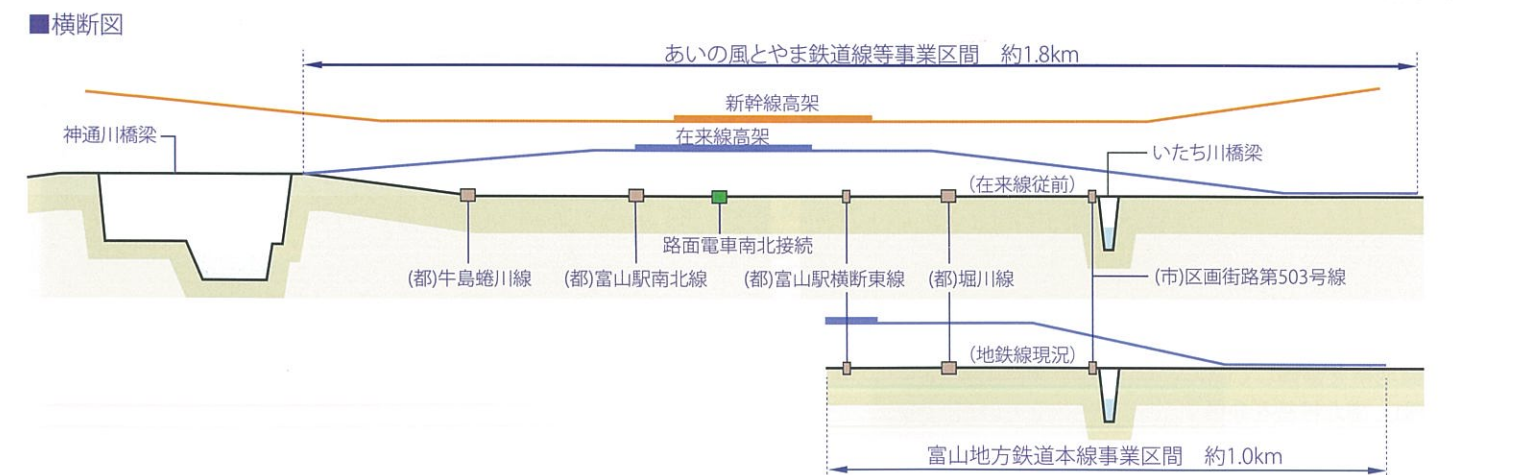
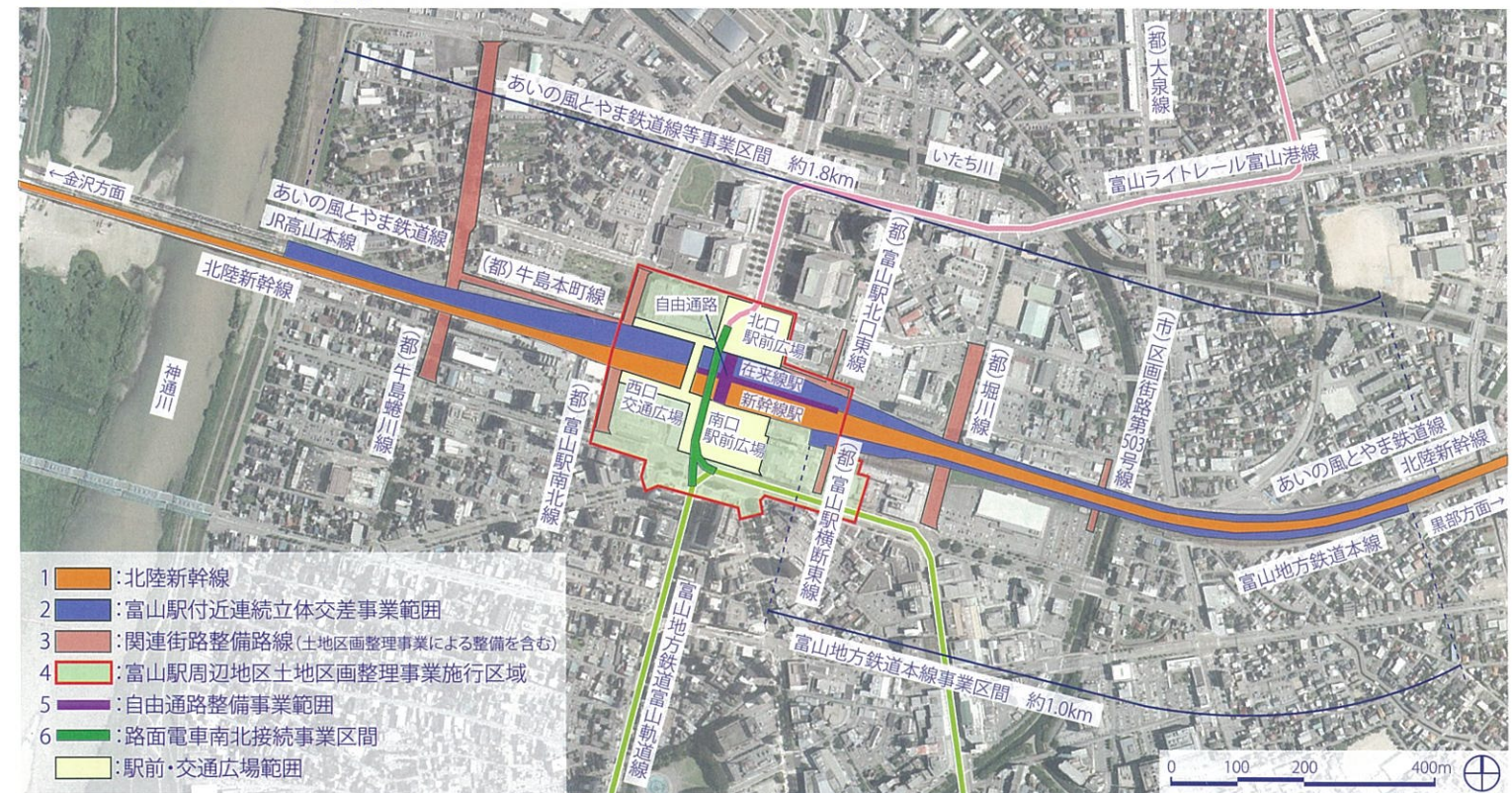
- コンパクトな連続立体交差**
富山港線の路面電車化や新幹線整備に合わせて施工することで、コストの縮減と駅施設のコンパクト化を実現します。
- 連続する南北の都市軸**
南北の市街地が高架下空間で結ばれ、LRT、歩行者動線が連続し、新たな南北の都市軸を形成します。
- 駅とまちを結ぶ3つのロータリー**
バス・タクシー専用ロータリーなどからなる南口・北口駅前広場と、高架下空間を活用した一般車専用の西口交通広場が駅とまちをつなげます。
- 東西南北を結ぶ自由通路**
南北の駅前広場をつなげる広幅員の南北自由通路に加え、東西自由通路の整備により、鉄道利用者に限らない回遊性を生み出します。
- 富山らしさをいかした駅・駅前空間のデザイン**
駅舎や駅前広場、軌道空間などが、調和した景観となるよう配慮し、県都の玄関口として富山らしく魅力あるものとなるよう整備を進めます。

II. 富山駅周辺整備事業を構成する6つの事業

- 1. 北陸新幹線建設事業**
北陸新幹線は東京から長野、富山を経由し大阪に至る約700kmの路線で、長野～金沢間は平成27年3月14日に開業しました。
- 2. 富山駅付近連続立体交差事業**
北陸新幹線建設事業に併せ、富山駅周辺の抜本的な改善を図るため、あいの風とやま鉄道線、JR高山本線や富山地方鉄道本線を高架化するものです。
- 3. 関連街路整備事業**
連立事業区間において、これまで鉄道により分断されていた南北市街地を結ぶ街路の新設・拡幅を行い、鉄道の高架化をいかした交通環境の改善を図るものです。
- 4. 富山駅周辺地区土地区画整理事業**
富山駅周辺地区の一体的なまちづくりを推進するため、駅前広場や都市計画道路などの基盤整備とあわせ、駅周辺における土地利用の高度化を図るものです。
- 5. 自由通路整備事業**
新幹線及び在来線の高架下空間を利用して自由通路を整備することで、富山駅周辺における歩行者空間の確保と公共交通の乗換えの円滑化を図るものです。
- 6. 路面電車南北接続事業**
新幹線及び在来線の高架下に停留場を新設し、富山駅南北の路面電車路線を接続するものであり、富山駅の交通結節機能強化やLRTネットワークの形成による公共交通活性化を推進するものです。

→ このように、相互に関連する6つの事業を総合的に推進していくことにより、新たな時代に対応した南北一体的なまちづくりを実現していくことが、富山駅周辺整備事業の目的です。

【6つの整備事業の位置図】



5. 自由通路整備事業

新幹線及び在来線の高架下空間を利用して鉄道利用者以外の方でも通行できる自由通路を整備します。地平レベルでの歩行者通路であるため、南北市街地の行き来や富山駅での公共交通の乗換えがわかりやすく安全に行えるようになります。

新幹線改札口正面の床にはフロア・シャンデリアを設置し、その先にはLRT空間が見通せます。また、柱部分にはアルミや県産杉を用い富山ならではの空間を演出しています。

〈南北自由通路〉
 延長 約75m 幅員 約25m
 高さ 新幹線側約7.0m 在来線側約5.0m
 事業主体: 富山市

〈東西自由通路〉
 延長 約180m 幅員 約6m
 事業主体: 富山市

南北自由通路

■南北自由通路(南口駅前広場側より望む)



柱の南北面はほっとできる空間を演出するため県産杉を、東西面はL R Vを引き立てるためシャープな印象のアルミを壁面に用いています。

■多目的デッキ

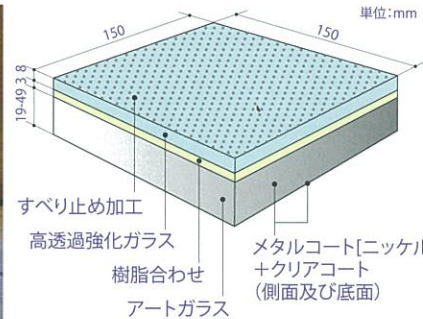


待ち合わせや休憩、時にはイベントにも使えるスペースです。新幹線高架の高さを活かして2階相当の高さに設置しています。

■フロア・シャンデリア(新幹線改札側より望む)



〈ガラスブロック模式図〉



通路の床面に、富山の工芸ガラスブロックを埋め込み、天井から多彩な光を当て、反射光によってシャンデリアのような華やかな雰囲気演出します。

■総合案内所



富山駅や周辺施設の案内、観光・イベント情報の提供、乗り換え案内等、まちのコンシェルジュ的な役割を担います。

東西自由通路

■東西自由通路



新幹線側の壁面は県産杉で印象的に仕上げました。ガラス作品やポスターを展示し楽しめる空間としています。

■西口トイレ



東西自由通路に面した公衆トイレには、多機能トイレの他、授乳やおむつ替えに利用できるベビーケア室を設置しています。男女トイレの入口では富山らしくガラス作品による案内をしています。

6. 路面電車南北接続事業

富山駅南側の富山地方鉄道富山軌道線(市内電車)と北側の富山ライトレール富山港線を、新幹線・在来線高架下に新設する停留場で接続します。富山市の推進するL R Tネットワークのシンボルとして整備を進めています。

延長: 約250m
 幅員: 約15.5m
 事業主体: 富山市、富山地方鉄道(株)、富山ライトレール(株)

高架下軌道空間

■高架下停留場(南口駅前広場側から望む)



新たな停留場の東西の壁面にガラスを用いることでL R V(次世代型低床車両)のショーケースのような空間を表現しています。柱にアルミ、床にモノトーンを自然石を用い、シンプルなデザインによりL R Vを引き立てる空間としています。

■高架下停留場(南北自由通路から望む)



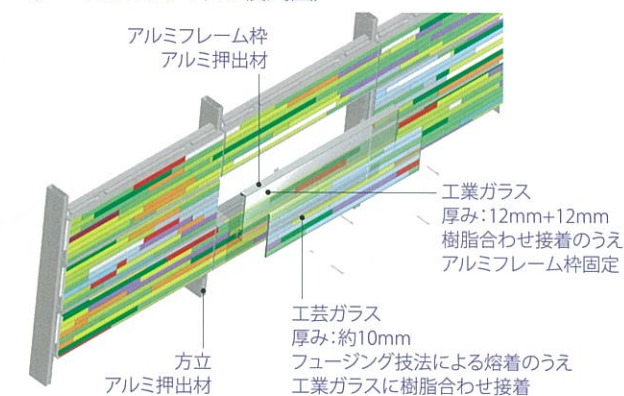
新幹線や在来線の改札から自由通路を抜けて、雨や雪を気にすることなく路面電車に乗り換えることができます。停留場が高架下にあるため、だれにでもわかりやすく使いやすい施設となっています。

■トランジット・ライティング・ウォール



停留場の西側壁面には、工芸ガラスを特別なアルミサッシュによりパネル化したアートガラスを設置しています。パネル背後のLED照明による演出など、富山の大自然を表現しています。

〈アートガラスパネル模式図〉



南口駅前広場軌道空間

■軌道空間と南口駅前広場



南口駅前広場区間は、乱横断防止と環境への配慮から軌道両側に緑地帯を整備しています。架線柱の連続により、南北の軸線を強調し、南北接続を象徴するデザインとしています。

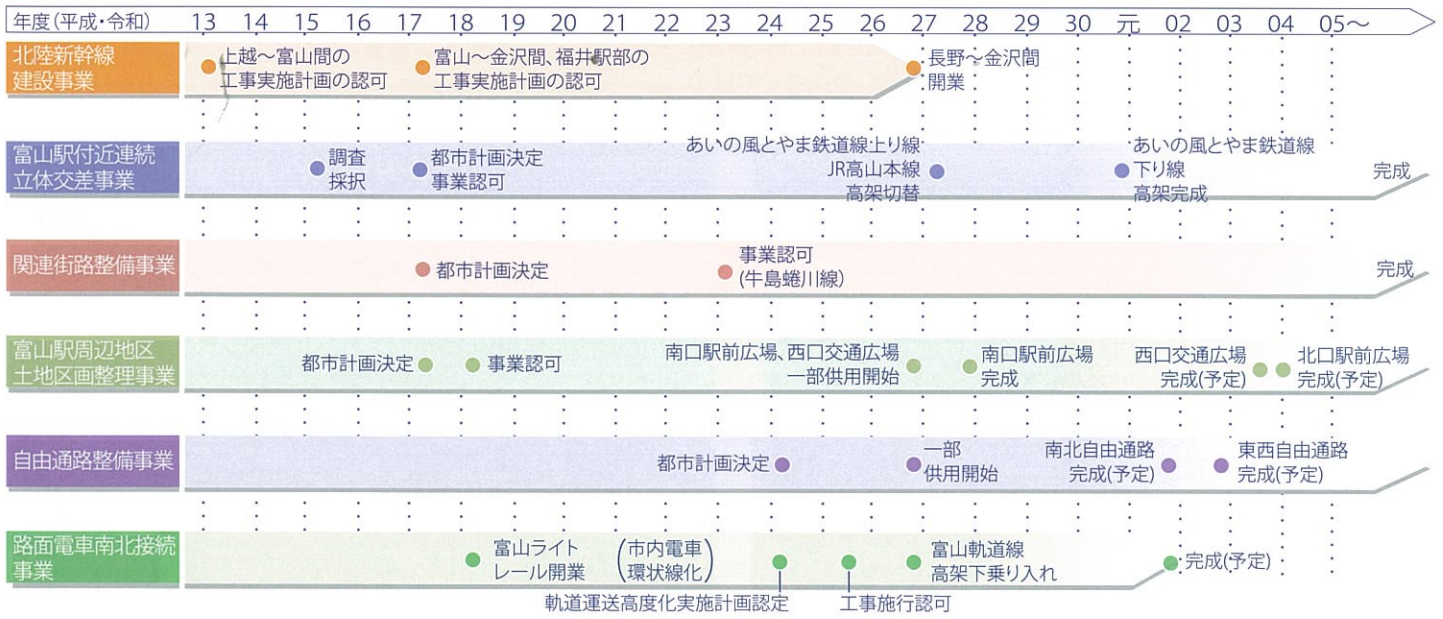
■南口駅前広場



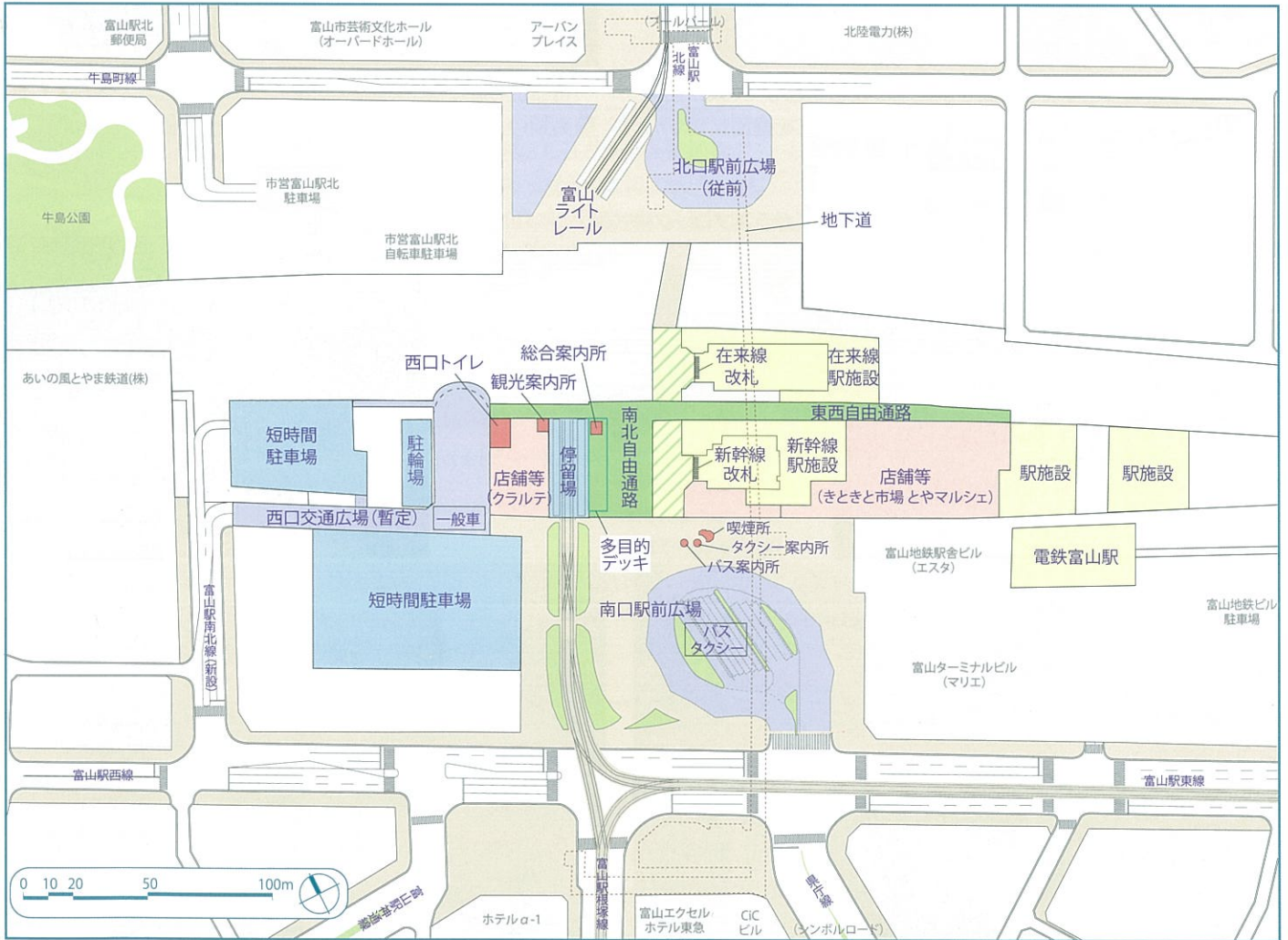
南口駅前広場の樹木は、旅立ち、迎え、別れ、出会いの場となる富山駅をより印象深い場所とするため、多くの人に愛される「桜」を14本配置しています。このうち3本は、ワシントンDC、ポトマック河畔の「日米友好の桜」の枝を日本で接木し育てた「里帰り桜」を植樹しています。

Ⅲ. 富山駅周辺整備事業のスケジュール

平成27年3月の北陸新幹線開業後、あいの風とやま鉄道線下り線の高架化に着手し、平成31年3月に完成しました。
現在、路面電車南北接続事業及び北口駅前広場等の整備を進めています。



【富山駅周辺地区平面図(令和元年10月現在)】



問い合わせ先

富山市 活力都市創造部 富山駅周辺地区整備課

TEL 076-443-2016

e-mail toyamaeki@city.toyama.lg.jp

<http://www.city.toyama.toyama.jp/katsuryokutoshisouzoubu/ekishuhenseibika/toyamaekishuhenseibi.html>